

検 印

第2学年1組道徳学習指導案

令和元年6月27日(木) 第5校時

在籍児童数 20名

活動場所 第2学年1組教室

指導者 教諭 篠崎 鈴香

1 主題名 あたたかい心で 内容項目 B(6) 親切・思いやり

教材名 ぐみの木と小鳥(学研 みんなのどうとく 2年)

2 ねらい

相手の気持ちや立場になって考える活動を通して、お互いが気持ちよくなることを理解し、相手のことを考えて親切にしようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心を持ち親切にすることに関するものである。「思いやり」は相手の気持ちや立場になって考え、その気持ちを相手に向けること、「親切」は思いやりのある行為であることと考える。つまり、思いやりは相手や周りのことを考えるという心の中のもの、その思いやりを伴って目に見える行為として現れたものが親切であると捉える。

思いやりの心や人に親切に接する態度を育てるためには、①相手の気持ちや立場になって考えようとする意識をもつこと、②相手の気持ちや立場になって考えること、③考えたことを行動に移そうとする姿勢や態度、④考えたことを実際に行動に移す経験、⑤親切にすることの清々しさを味わう経験が重要であると考えた。

小学校低学年において、様々な人々の関わりの中から、相手の考えや気持ちに気づき、優しく接することができるようになることが求められる。また、具体的に親切な行為ができるようになることが大切である。児童が様々な人々と関わり合って学校生活をしていく中で、相手の立場を考えたり、気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感し、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ、誰に対しても温かい心で接することができるように指導していきたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、教師の手伝いを進んでしたり、けがをしたときや忘れ物をしたときなど困っている友達に声をかけてあげたりできる児童がいる。帰りの会でも、友達と一緒に遊んだことや優しくしてもらったことなど友達のよかったところを話す児童が多い。一方で、友達に意地悪をしてしまったり、自分中心に考え、困っている友達を見て見ぬふりをしたりする児童もいる。

そこで、本時は思いやりの気持ちや親切な行為が相手の喜びとなり、結果として自分の喜びに繋がることを理解させ、進んで親切にする態度を育てたい。

以下の表は、本学級の児童を対象に実施したアンケート結果である。(令和元年6月12日実施)

項目1 友達の気持ちを考えようとしていますか。			
ア いつも考えている…11人	イ たまに考えている…9人	ウ あまり考えていない…0人	エ 考えていない…0人
項目2 友達の気持ちを考えて行動しようとしていますか。それはなぜですか。(無回答1人)			
ア いつも行動している…10人	イ たまに行動している…8人	ウ あまり行動していない…1人	エ 行動していない…0人
理由 <ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちを考えた方がいいから。 ・友達が大切だから。 ・友達が困っていることがあったから。 ・いつも助けてもらっているから。 			
項目3 友達の気持ちを考えて行動したことはありますか。			
ア ある…7人	イ 少しある…5人	ウ あまりない…7人	エ ない…1人
項目4 友達の気持ちを考えて、どんな行動をしましたか。(項目3でア、イと回答した児童のみ)			
<ul style="list-style-type: none"> ・友達を助ける。 ・みんなのやりたいことを考えて行動している。 ・友達を保健室に連れていった。 ・けがした友達がいたので、先生に伝えた。 ・友達がけんかしていたので、止めた。 			
項目5 友達の気持ちを考えて行動したとき、どのような気持ちになりましたか。 (項目3でア、イと回答した児童のみ)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ホッとした。 ・楽しい気持ちになった。 ・うれしい気持ちになった。 			

アンケートの結果から本学級の児童の多くは、相手の気持ちを考えて親切な行為をしようとしている。相手の気持ちを考え、親切な行為をするべきだということを理解していると考えられる。しかし、項目3から実際に親切な行為をしたことがある、少しあると肯定的な回答をした児童の割合は少し低くなっていることが分かる。

このことから、思いやりの心を持ち、親切な行為をすることがよいことであるということについて、知識として理解しているが、実際にその行為に移すことに関しては十分にできていないということが分かる。

また、項目5からは、親切にした時の清々しさを経験している児童がいることが分かる。実際に親切にすることで相手も自分も気持ちがよくなるということを感じさせることで、思いやりの心をもって親切に接することのよさを味わわせたい。

(3) 資料について

1羽の小鳥がぐみの木のもとでぐみの実を食べていると、ぐみの木からりすが姿を見せなくて心配であると話を聞いた。小鳥は動くことができないぐみの木に代わって、りすのために実を届け続けた。ある日、小鳥がりすにぐみの実を届けようとするが、外は嵐だった。ぐみの木から、危険だからやめ

た方がいいと止められたが、小鳥はぐみの実をくわえ、嵐の中を飛び立っていった。小鳥はやつどの思いでりすにぐみの実を届け、りすに感謝されるという内容の教材である。

本教材では、ぐみの実を届ける小鳥の姿から相手を思いやる温かい心に触れることを通してねらいに迫りたい。激しい嵐を前に葛藤しながらも、目の前にはいないりすの気持ちを押し量り、嵐の中を飛んでいく小鳥の姿を中心にして相手のことを考える強い思いやりの気持ちを感じ取らせたい。また、小鳥になりきって役割演技をすることで、思いやりの心をもって親切にすることや、そのことで相手から感謝され、自分自身も気持ちがよくなることを体験的に学習させる。「りすを思いやって親切にする小鳥」「小鳥の親切な行動に感謝するりす」の二者の立場を押さえながら、親切にすることの意義について考えさせていきたい。

4 研究主題との関わり

研究主題 「カリキュラム・マネジメントによる学校教育活動の改善に関する研究」
～SDG s の実現を目指す ESD の取組をとおして～

研究主題と仮説に関連させ、それぞれについて手立てを立てて指導に当たっていく。

【仮説1】 SDGs、ESD の視点を取り入れた教育課程を編成し、体系的、継続的な教育活動を実践すれば、子どもたちに「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来を創ろうと考え行動する力」が育成されるであろう。

〈手だて1〉 SDGs、本時における ESD の視点を明確にし、本校児童に身に付けさせたい資質・能力を育成する。

SDG s 17：パートナーシップで目標を達成しよう。

ESD の視点：多様性 事物・現象を多面的に見たり考えたりする。

相互性 人同士も関わり合って相互に作用していることを認識する。

連携性 互いに協力して問題を解決していく。

【仮説2】 カリキュラム・マネジメントの3つの側面を計画的に教育活動に取り入れ、組織的に実践すれば、より質の高い教育活動に改善され、子どもたちに「困難な課題に立ち向かい、様々な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来を創ろうと考え行動する力」が育成されるであろう。

〈手だて2〉 教科横断的な指導で、思いやりの心と親切に接しようとする態度を育てる。

児童会 「なかよし班活動」「なかよしフェスタ」

生活科 「町のすてき大はっけん」「作ってあそぼう」

道徳 「まいごのすず」「公園のおにごっこ」

図工 「どきどきカード」「ピコリン星ゆめのステージ」

5 学習指導過程

段階	学習活動（○主な発問）	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 （☆評価）	時間
導入	<p>1 親切にされた経験を話し合う。</p> <p>○これまでの生活を振り返り、親切にされて嬉しかったことはありますか。</p>	<p>・忘れ物をしたときに友達がかしてくれた。</p> <p>・けがをしたときに上級生が保健室まで付き添ってくれた。</p>	<p>・友達だけではなく、多様な人との関わりの中で、親切にしてもらった場面とその気持ちを思い起こさせる。</p>	3
<p>親切にするとどんな気持ちになるだろう。</p>				
展開	<p>2 教材「ぐみの木と小鳥」の読み聞かせを区切りながら聞く。</p> <p>3 教材を基に話し合う。</p> <p>○ぐみの木にりすのことを聞いた小鳥はどんなことを思ったでしょう。</p> <p>○嵐がやむのを待っている間、小鳥はじっと何を考えていたのでしょうか。</p> <p>○それでも小鳥が嵐の中、力をふりしぼって飛び続けたのはなぜでしょう。</p>	<div data-bbox="608 779 1345 1120" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【登場人物】 ぐみの木 小鳥 りす</p> <p>【条件・状況】</p> <p>・ぐみの木が友達のりすが姿を見せないことを心配し、代わりに小鳥が様子を見に行く。病気で寝ているりすのために嵐の中も小鳥はりすにぐみの実を届け、「ありがとう」と感謝される。</p> </div> <p>・りすさんのことが心配だな。</p> <p>・どうして来ないのだろう。</p> <p>【行く】</p> <p>・ぼくが行かないとりすさんが困る。</p> <p>・りすさんが待っている。</p> <p>【行かない】</p> <p>・こわいからいきたくないな。</p> <p>・嵐がやんでから行こう</p> <p>・りすさんの病気がひどくなったらいやだ。</p> <p>・りすさんは、ぼくを待っているから。</p>	<p>・ぐみの実を食べて、楽しい気持ちの小鳥だが、ぐみの木の友達のりすがいないことに気付かせる。</p> <p>・ぐみの木に「嵐がやんでからにしてください。」と言われ、行くことを迷う小鳥や、それでも飛んでいくことを決心した小鳥の気持ちをハートメーターを使って考えさせる。</p>	<p>2</p> <p>22</p>

	<p>○りすに「ありがとう」と言われて、小鳥はどんな気持ちになったでしょう。役割演技をしましょう。</p> <p>4 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める</p> <p>○「ぐみの木と小鳥」の学習をした感想を書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・りすさんに喜んでもらえてうれしい。 ・ありがとうと言われてうれしい。 ・りすさんのためにがんばってよかった。 ・親切にする人もされる人もよい気持ちになることが分かりました。 ・小鳥のように親切なことをお友達にしてあげたくなった。 ・ぼくも友達に親切にしよう。 ・困っている友達がいたら声をかけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・りす役を担任、小鳥役を児童として、役割演技を行う。小鳥から感謝され、親切にされた方だけではなく、親切にした方も温かい気持ちになることを押さえる。 ☆進んで親切にすることのよさに気づくことができたか。(観察・ノート) 	10
				6
終末	7 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習が今後の生活に活かされるよう、親切・思いやりに関する説話をする。 	2

6 板書計画

親切なことをしたり、されたりするとうれしい



ありがとう
よろこんでもらえて
うれしい
がんばってよかった

行く

♥

行かない

- ・ぼくが行かないとりすがこまる。
- ・りすさんがまっている。
- ・行かなきゃ!
- ・やくそくしたから
- ・はやくなおってほしい

- ・行きたいけどこわいな
- ・あらしがやんでから行こう
- ・けがをしちやうかも
- ・あぶない
- ・行きたくないな

どうしたのかな

りすさんのことがしんぱいだな。
どうしてこないのだろう。



ぐみの木と小鳥

しんせつにすると、どんな気持ちになるだろう。